

## はしがき

本書は、憲法を中心としつつ重要な法律の各分野の考え方を理解することができるように編集した。内容的には、高度な水準を平易に語るといふ形をとって、法学に関心を寄せる人たちの学習意欲に応えらるとともに、これから法学を学ぶいわゆる初学者に対しても、最初に接するにふさわしい親切な本となるように努力した。読者のかたがたは、本書のなかから、基礎的な知識と今日の法学の課題を十分に吸収していただきたい。本書のもとになった『やさしく学ぶ法学』は初版の刊行以来、多くの読者の好評を得て、その時代の入門書として、大きな役割を果してきた。内容的にみても、その時代の社会的要請に応じたものとして評価されてきた。

本書は、第三版の刊行からすでに数年を経過し、重要な社会の動き、たとえば、裁判員制度、原発問題、国際人権問題などの問題もあり、この機会に、全体的な見直しを試みた。あわせて、執筆者として、学界の人材に新たに加わっていただき、新鮮さを加えた。このように、現代社会における法学の学習・理解を深める上で、さらなる内容上の充実をはかった。

新しい版においても、読者の支持を得ることができると期待している。

末尾になったが、本書の執筆をしていただいた先生がたと、編集事務に努力をしていただいた舟木和久氏に、感謝の意を表したい。

二〇二二年（平成三四年）三月吉日